

授 業 科 目	特別学修(TOEIC：eラーニング初級)		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	4年・全学科・集中	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド	Listening、Reading、Grammar、Communicative Competence		
関 連 科 目	英語ⅠA・ⅡA、英語ⅠB・ⅡB、英文法Ⅰ・Ⅱ、英語Ⅲ、英語表現		
担 当 教 員	山本長紀、小澤健志		
連絡先(オフィス・アワー)	――@―― (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる) ――@―― (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		
教 科 書	・『Practical English 6 (Elementary) (TOEIC®対応) 総合英語コース 6 入門編』、リアリーイング リッシュ株式会社、2,800円＋税(アカウントを購入)		
補 助 教 科 書 等	・		
参 考 図 書	・入学時に購入した文法参考書および電子辞書を含む各種辞典(継続使用) ・『TOEICテスト 新公式問題集』 Vol. 1～6		
プログラム目標	(C－3)		
達 成 目 標 (合格点)		各達成目標の評価方法(評価の割合／重み)	
・ TOEIC L&Rで350点以上が得点できる。		・ TOEIC L&R(受験必須)の点数による評価を基本(100%)とする。なお、中間試験および定期試験に該当する試験を実施し、学修状況を確認する。	
履 修 上 の 注 意	・ 当授業は、各自で「ライセンス」を購入した上で受講する「eラーニング」を基本とする授業であるが、次の2件の履修条件が設定されている。 (1) 実用英検：準2級(以上)合格 (2) TOEIC L&R(IPを含む)未受験または最高得点が400点未満の者 ・ 単位認定のためには、次のような2件の基礎条件が設定されている。 (1) eラーニングによる12月末日までの30時間以上の学習 (2) 受講期間中の TOEIC L&R(IPを含む)の受験(結果が1月末日までに得られるものに限る)		
授 業 計 画			
項 目			学習内容等
時間数			
スキル	トピック	サブトピック	レッスントイトル
Grammar	名詞句	名詞句	Paintings and plays
Grammar	名詞句	名詞句	Where I work
Grammar	前置詞	前置詞	Where is it?
Grammar	動詞と時制	現在	Tell me about you
Grammar	動詞と時制	現在	My daily routine
Grammar	動詞と時制	過去	A night tout
Grammar	動詞と時制	過去	A boring weekend
Grammar	形容詞と副詞	形容詞	Twins
Grammar	形容詞と副詞	副詞	My new life
Grammar	接続詞	接続詞	Food I love
Listening	ビジネス	日常業務	My working day
Listening	ビジネス	日常業務	Office jobs
Listening	ビジネス	日常業務	Office equipment
Listening	余暇と娯楽	余暇	Free time activities
Listening	余暇と娯楽	余暇	Playing soccer
Listening	余暇と娯楽	映画と演劇	At the movie theater
Listening	日常生活	食事	Describing a meal
Listening	日常生活	ショッピング	At the supermarket
Listening	日常生活	食物	The weekly shopping trip
Listening	日常生活	日常生活	A typical day
Reading	ビジネス	セールスとマー	Let's go shopping
Reading	ビジネス	国際ビジネス	Green business
Reading	ビジネス	会議	Meeting to talk
Reading	社会と政治	教育	Studying at college
Reading	社会と政治	文化	A rich culture
Reading	社交と対人関係	ビジネスにおける成功	A bad day
Reading	社交と対人関係	家族と友人	Good friends
Reading	社交と対人関係	ビジネスにおける成功	Good feelings
Reading	旅行と交通	旅行	On the road
Reading	旅行と交通	旅行	Getting around
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	TOEIC L&R(受験必須)の点数による評価を100%とし、0～349点は50点、350～379点は80点、380～389点は90点、390点以上は100点の評価を行う。なお、400点以上の得点については、「TOEIC L&R：初級」等の単位認定(「英語演習Ⅱ」への振替が優先)を併せて行う。		

授 業 科 目	特別学修（実践ドイツ語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）		
開 設 学 科 学 系	人文学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	3～5年・通年	授 業 形 態	
キ ー ワ ー ド	ドイツ語、ドイツ文化、ドイツ社会		
関 連 科 目	履修の前年度までに履修可能な外国語・社会関連のすべての科目		
担 当 教 員	柴田 育子		
連絡先(オフィス・アワー)	shibata@h.kisarazu.ac.jp（事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる）		
教 科 書	自分で判断して選択すること		
補 助 教 科 書 等	自分で判断して選択すること		
参 考 図 書	自分で判断して選択すること		
プログラム目標			
達 成 目 標（合 格 点）		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・ ドイツ語圏で日常生活を送る上で必要なドイツ語運用能力を身に付ける。とくに実践を通じて獲得したドイツ語表現を運用できる。		ドイツ語による面接試験を実施し、ドイツ語運用能力を確認する。(評価割合：40%)	
・ 日独における文化・社会を比較考察した上で、ドイツ文化・社会の特徴・現状を日本語で説明できる。		帰国報告会における研修成果の口頭発表や、発表資料(PPT等のファイル)に基づき、実践による学びであるかどうかを確認する。(評価割合：30%)	
・ 日独における文化・社会を比較考察した上で、慣用語とドイツ文化・社会について説明できる。		和文1000字程度の報告書1編、独文1000字程度の報告書1編の計2編に基づき、実践による学びであるかどうかを確認する。(評価割合：30%)	
履 修 上 の 注 意	・ 本校主催の在外研修、またはPASCHプログラムによる派遣事業への参加を前提とする。 ・ ドイツ語検定4級および欧州共通言語参照枠A1合格を履修要件とする。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	
・ 事前学習		・ 実践的に学びたい項目を主体的に調べておくこと。とくにドイツ語の実践的な表現をあらかじめ調べ、活用できるよう準備しておく。	
・ ドイツ語の実践的学習		・ ドイツ語を主とする生活の経験を通じて、ドイツ人が使う実際の表現を学ぶ。	
・ ドイツ文化の学習		・ ドイツ語を主とする生活の経験を通じて、ドイツ人の生活や習慣に関する様々な事柄を実際に見聞・体験し、ドイツ人の考え方に触れ、日本文化と比較することでドイツ文化に関する理解を深める。	
・ ドイツ社会の学習		・ ドイツ語を主とする生活の経験を通じて、ドイツ人の政治経済や歴史に関する様々な事象の観察し、ドイツ人の平均的な考え方を知り、日本社会と比較することでドイツ社会に関する理解を深める。	
・ 事後学習		・ 研修期間中に経験したことを整理し報告書にまとめ、帰国報告会において口頭発表を行う。	
合計授業時間数(定期試験は除く)		30	
成績の算出方法	プログラム実施主体の発行する修了証（複写可）の提出を前提とし、面接試験・報告書2編・帰国報告会における口頭発表を評価し、成績を算出する。		

授 業 科 目	特別学修 イベント活動：ロボコン I, II, III, IV, V		
開 設 学 科 学 系	全学科	区 分 ・ 単 位 数	選択・各学年1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学年全学科・通年	授 業 形 態	実習
キ ー ワ ー ド	ロボット製作, 独創性		
関 連 科 目	機械・電気・制御・情報系科目全般		
担 当 教 員	伊藤裕一		
連絡先(オフィス・アワー)	itoh@m.kisarazu.ac.jp（事前にメール等で調整を行った上で質問に応じる）		
教 科 書			
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プログラム目標			
達 成 目 標（合格点）		各達成目標の評価方法（評価の割合／重み）	
[I] ロボット製作に関する基本的な技術・知識を身につけ、その技術・知識をもとに的確に行動できる。 [II] ロボット製作に関するより高度な技術・知識を身につけ、その技術・知識をもとに小グループの目標を設定し行動することができる。 [III] 専門分野におけるロボット製作に関するさらに高度な技術・知識を身につけ、所属する小グループを取りまとめ、全体の目標における役割を考えた行動ができる。 [IV] 専門分野外の製作技術・知識の概要を学習し、その知識を自身の専門分野の活動に生かすことができる。また、ロボット製作全体の目標を設定し、取りまとめることができる。 [V] 製作期間などの制限事項を考慮しながらロボット製作全体の目標を設定し、取りまとめることができる。また、全体の目標が達成できるよう技術的な指導をすることができる。		ロボット作成に対する貢献度や活動報告書などにより総合的に評価する。（100%）	
履 修 上 の 注 意	当該年度の全国高等専門学校ロボットコンテストに参加するためのロボットを作成する。ものづくりをすすめる際に必要となるあらゆる知識に対し、普段より興味を抱き、自己学習に励む姿勢が大切である。また、直面するあらゆる課題・困難に立ち向かい克服する根気や粘り強さを磨く努力も怠らないこと。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
アイデア醸成段階	コンテスト課題に対応したロボットのアイデアを自身の技術・知識に応じた形で文章・図表などの方法で適切にまとめ、提示する方法を学ぶ。		5
ロボットの製作	自身の技術・知識、担当役割など考慮しながらロボット製作活動の技術と知識を学ぶ。		20
製作したロボットの評価	製作されたロボットに対して、自身の技術レベルに応じた評価を下し、さらに課題と改善案を検討する。		5
合計時間数			30
成績の算出方法	ロボット作成に対する貢献度や活動報告書などにより総合的に評価する。（100%）		

授 業 科 目	特別学修 イベント活動：プロコンⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ		
開 設 学 科 学 系	情報工学科	区 分 ・ 単 位 数	選択・各学年1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学年全学科・通年	授 業 形 態	実習
キ ー ワ ー ド	プログラミング、独創的アイデア、プレゼンテーション（発表力）		
関 連 科 目	プログラミングの講義・演習全般、ドキュメント書法などの発表方法の講義		
担 当 教 員	丸山真佐夫		
連絡先(オフィス・アワー)	maruyama@j.kisarazu.ac.jp（メール等による調整の上で質問に応ずる）		
教 科 書			
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プログラム目標			
達 成 目 標（合 格 点）		各達成目標の評価方法（評価の割合／重み）	
【Ⅰ】身に付けた技術・知識をもとに的確に行動できる。 【Ⅱ】身に付けた技術・知識をもとに小グループの目標を設定し行動することができる。 【Ⅲ】所属する小グループを取りまとめ、全体の目標における役割を考えた行動ができる。 【Ⅳ】全体の目標が達成できるよう技術的な指導をすることができる。 【Ⅴ】全体の目標を設定し、取りまとめることができる。		システム作成への貢献度(100%)で評価する。具体的には、アイデア提起、プログラム作成、回路製作、発表などである。	
履 修 上 の 注 意	プログラミングや回路製作の基礎知識は必須であり、アイデアを練る力や実装計画を立てて実行する力も重要である。特に独創性が重要視されるため、ユニークな思考が必要となる。また、審査員や観客の前で内容発表を行うので、発表技術を学んでおくことが望ましい。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
「プロコン」の正式名称は「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」である。このコンテストは、高専生の情報処理技術における優れたアイデアとその実現力を競うものであり、課題、自由、競技の3部門に分かれている。そして、各部門とも予選と本選から構成されており、予選ではアイデアと実現性が重視され、本選では作品を実際に作成しての内容説明や実演（課題および自由部門）や、主幹校の提案した競技に則り他高専を相手に競い合う（競技部門）。本選出場までをこの特別学修とする。			
・ ガイダンス	・ 趣旨、昨年度の様子などを説明する。		1
・ 学内予選	・ テーマに沿ってアイデアをまとめる。 ・ 全部門とも、学内予選会で内容を発表する。		2
【課題部門および自由部門】 ・ プログラム作成 ・ システム概要発表資料の作成 ・ 操作マニュアル作成 ・ 本選での作品内容発表・実演 【競技部門】 ・ プログラム作成 ・ 本選での競技	・ アイディアに基づいてプログラムを作成する。その間、新しいアイデア、効率のよいアルゴリズムなども検討する。課題および自由部門の場合は、システムを使用するユーザの立場を十分に考慮し、システムとしての完成度を高める。また、競技部門の場合は、競技条件に対して柔軟に対応できるシステムに仕上げ、難問も克服して勝ち進む頑健性が要求される。 ・ 課題および自由部門の場合、並行して発表資料も作成する。この2部門は、本選当日にシステムの概要を提示資料により発表する。この発表も審査対象であるので、システム概要を容易に理解でき、かつ、その有用性をアピールできるような資料を作る。また、操作マニュアルも作成する。この操作マニュアルもまた審査対象であるので、判りやすく、かつ、マニュアル通りにシステムを作動できることが要求される。記述内容を十分に吟味するとともに、図や写真、表などを効果的に用いて表現を工夫する。 ・ 本選での作品発表と実演、他の高専と競技を行う。		27
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	システム作成への貢献度(100%)で評価する。作成に30時間以上参加し、かつ、予選を通過して本選出場を果たすことが、単位認定に値すると評価するための最低条件となる。ただし、本選での成績については問わない。		

授 業 科 目	特別学修 イベント活動：IVRCユースⅠ、Ⅱ、Ⅲ、IVRCⅠ、Ⅱ		
開 設 学 科 学 系	情報工学科	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学年全学科・通年	授 業 形 態	実習
キ ー ワ ー ド	プログラミング、回路製作、独創的アイデア、プレゼンテーション（発表力）		
関 連 科 目	プログラミング、実験・実習、ドキュメント書法		
担 当 教 員	渡邊孝一		
連絡先(オフィスアワー)	watanabe@j.kisarazu.ac.jp（事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる。）		
教 科 書			
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プログラム目標			
達 成 目 標（合 格 点）		各達成目標の評価方法（評価の割合／重み）	
【IVRCユースⅠ】身に付けた技術・知識をもとに的確に行動できる。 【IVRCユースⅡ】身に付けた技術・知識をもとに小グループの目標を設定し行動することができる。 【IVRCユースⅢ】所属する小グループを取りまとめ、全体の目標における役割を考えた行動ができる。 【IVRCⅠ】全体の目標が達成できるよう技術的な指導をすることができる。 【IVRCⅡ】全体の目標を設定し、取りまとめることができる。		システム作成への貢献度(100%)で評価する。具体的には、アイデア提起、プログラム作成、回路製作、発表などである。	
履 修 上 の 注 意	プログラミングや回路製作の基礎知識は必須であり、アイデアを練る力や実装計画を立てて実行する力も重要である。特に独創性が重要視されるため、ユニークな思考が必要となる。また、審査員や観客の前で内容発表を行うので、発表技術を学んでおくことが望ましい。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
「IVRC」の正式名称は「International collegiate Virtual Reality Contest」で、全国の大学生を対象とした国際的なバーチャルリアリティコンテストである。IVRCユースは2012年に開設された、全国の高校生および高等専門学校の3年次までに所属する学生を対象としたバーチャルリアリティコンテストである。 コンテストの予選審査では、アイデアの概要・詳細説明や独創性に加え、実装計画などを含む計画書による書類審査が行われ、予選を通過したチームが本選に出場する。本選では実際に作成した作品を展示し、審査員や観客に内容説明や実演を行う。本選出場までをこの特別学修とする。			
・ ガイダンス	・ 趣旨、昨年度の様子などを説明する。		1
・ 学内予選	・ それぞれのチームごとに独創的な作品を意識し、アイデアをまとめる。 ・ 学内予選にて内容を発表する。		2
・ プログラム作成 ・ 回路製作 ・ 展示・説明用ポスターの作成 ・ 本選での作品内容発表・実演	・ アイディアに基づいてプログラムを作成する。その間、新しいアイディア、効率のよいアルゴリズムなども検討する。システムを使用するユーザの立場を十分に考慮し、システムとしての完成度を高める。 ・ プログラムと並行して、ハードウェア（回路など）を作成する。その際、デバッグしやすい配線や美しい配線などを心がける。 ・ ソフトウェアとハードウェアを結合させ、正常に動作するシステムを完成させる。 ・ 作品の製作に加え、展示・説明用のポスターも作成する。ポスターの作成では、専門的な知識を有さない観客が来訪することを考慮し、直感的にわかりやすく、さらに作品の本質を伝えられるよう工夫する。		27
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	システム作成への貢献度(100%)で評価する。作成に30時間以上参加し、かつ、予選を通過して本選出場を果たすことが、単位認定に値すると評価するための最低条件となる。ただし、本選での成績については問わない。		

授 業 科 目	特別学修（ボランティア活動：社会福祉）		
開 設 学 科 学 系	全学科・学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学年全学科・通年	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド	福祉、ボランティア活動		
関 連 科 目			
担 当 教 員	加藤達彦（人文学系）、岡本保（電気電子工学科）、湯谷賢太郎（環境都市工学科）、大貫俊彦（人文学系）		
連絡先(オフィス・アワー)	kato@h.kisarazu.ac.jp／okamoto@e.kisarazu.ac.jp／yutani@c.kisarazu.ac.jp／onuki@h.kisarazu.ac.jp 事前にメール等により調整を行う。		
教 科 書			
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書	社会福祉法人千葉県社会福祉協議会編「ボランティア活動ハンドブック」		
プ ロ グ ラ ム 目 標			
達 成 目 標（合格点）		各達成目標の評価方法（評価の割合／重み）	
このボランティア活動では、学校では得られない様々な体験を通して豊かな人間性を作り上げることを目標とする。高齢者や障害者と交流する福祉体験は、心豊かな人間性を学び、自らが置かれている現状を見つめ直すよい機会となる。 社会的弱者を助け、相互に支えあう社会の仕組みを考えながら、技術者として自己実現を図っていくことで青少年期における人間形成に役立てる。		ボランティア活動報告書で評価（100％）する。	
履 修 上 の 注 意	ボランティア活動を希望する学生は、担当教員に前期中に申し出て登録申請をし、事前指導を受けること。また当日は、各自の参加したボランティア活動の責任者による指導のもと、安全に留意しながら活動に従事する。 なおボランティア終了後には「活動報告書」を担当教員に提出すること。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時 間 数
・ ボランティアの基礎知識 ・ ボランティア活動の実施	・ ボランティアコーディネーターや担当教員によるボランティア活動についての基礎事項の講義。 ・ 各依頼団体の施設等で担当者の指示に従ってボランティア活動を実施する。		2 28
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	各ボランティア依頼団体からの活動報告書により評価（100％）する。		

授 業 科 目	特別学修（ボランティア活動：地域支援）		
開 設 学 科 学 系	全学科・学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学年全学科・通年	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド	地域活動、学校支援ボランティア活動		
関 連 科 目			
担 当 教 員	加藤達彦（人文学系）、岡本保（電気電子工学科）、湯谷賢太郎（環境都市工学科）、大貫俊彦（人文学系）		
連絡先(オフィス・アワー)	kato@h.kisarazu.ac.jp／okamoto@e.kisarazu.ac.jp／yutani@c.kisarazu.ac.jp／onuki@h.kisarazu.ac.jp 事前にメール等により調整を行う。		
教 科 書			
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書	社会福祉法人千葉県社会福祉協議会編「ボランティア活動ハンドブック」		
プ ロ グ ラ ム 目 標			
達 成 目 標（合格点）		各達成目標の評価方法（評価の割合／重み）	
このボランティアでは、本校での学習成果を踏まえ、地域の小中学生に援助活動（出前授業、体験学習等）を行うことで異年齢交流を促進し、学ぶことの楽しさを共有しながら地域社会に貢献する。また本校の知的財産を生かし、上記以外でも地域活動をしている方々に対して支援活動を行っていく。 こうした活動を通じて地域の人々と交流を深め、学校では得られない様々な体験から多くのことを学び、技術者をめざす自身の人間形成に役立てることを目標とする。		ボランティア活動報告書で評価（100％）する。	
履 修 上 の 注 意	ボランティア活動を希望する学生は、担当教員に申し出て前期中に登録申請をし、事前指導を受けること。また当日は、各自の参加したボランティア活動の責任者による指導のもと、安全に留意しながら活動に従事する。 なおボランティア終了後には「活動報告書」を担当教員に提出すること。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時 間 数
・ ボランティアの基礎知識	・ 担当教員及び指導教員のボランティア活動についての基礎事項の講義。		2
・ ボランティア活動の実施	・ 各依頼団体の担当責任者の指示に従ってボランティア活動を実施する。		28
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	各ボランティア依頼団体からの活動報告書により評価（100％）する。		

授 業 科 目	特別学修（国際交流：外国人留学生支援）		
開 設 学 科 学 系	基礎学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	1～5年・通年	授 業 形 態	
キ ー ワ ー ド	日本語学習支援、学生生活情報の提供、異文化理解		
関 連 科 目	日本事情Ⅰ、現代社会、外国語、世界史に関係する様々な開講科目		
担 当 教 員	関口 昌由		
連絡先(オフィス・アワー)	masa@kisarazu.ac.jp（事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる）		
教 科 書	自分で判断して選択すること		
補 助 教 科 書 等	自分で判断して選択すること		
参 考 図 書	自分で判断して選択すること		
プログラム目標			
達 成 目 標（合 格 点）		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・ 留学生に、日本語で書かれた資料の読みを教える、あるいは一緒に調べる。 ・ 留学生が、日本語でレポート等を作成する場合に、必要な表現について助言を与える。		留学生の学習においてどのような問題があったのか、それをどのように解決したのか、あるいは解決を試みているのかをレポート形式にまとめた支援活動報告書の提出（年間2回、7月と1月）で評価する(50%)。	
・ 留学生の文化的背景を知り、日本文化との違いを理解する。		留学生の学習と学生生活に関連する困難の解決を通じて、異文化を背景とした問題についてまとめたレポートを提出（年間2回、7月と1月）し、その内容を評価する(50%)。	
履 修 上 の 注 意	・ 外国人留学生の最大の困難は日本語である。この困難を克服できない場合、留学生は他の様々な障害を自分で解決することができない。言語の背景にあるのは、文化や生活習慣・様式である。異文化という背景を理解しながら、留学生が早期に自立できるように言語生活における支援が、履修者に求められる。とくに日本事情Ⅰの授業に関連して、支援活動を行ってもらう。 ・ 日本事情Ⅰでは、留学生に日本語での作文を課す。課題は自国の文化および日本との比較である。その作文を支援してもらう。 ・ 留学生チューターもこの科目を履修することはできるが、チューター活動報告書の中に、この授業時間内での活動を含めることは認められない。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
・ 日本語学習支援	・ 留学生が利用する資料に書かれている日本語を説明する。 ・ 留学生の書いた日本語を読み、必要に応じて直す。		30
・ 外国文化の知識習得、異文化理解	・ 留学生が学生生活を送るときに直面する困難の原因を考察し、その中に含まれている異文化に根差した問題を明らかにする。		
合計授業時間数(定期試験は除く)			30
成績の算出方法	レポート提出と出欠状況・活動状況の観察から総合的に評価する。		

授 業 科 目	特別学修 (国際交流：異文化理解Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)		
開 設 学 科 学 系	基礎学系	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	2～5年・通年	授 業 形 態	
キ ー ワ ー ド	外国の文化、日本文化		
関 連 科 目	現代社会、外国語、世界史に関係する様々な開講科目		
担 当 教 員	関口 昌由		
連絡先(オフィス・アワー)	masa@kisarazu.ac.jp (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		
教 科 書	自分で判断して選択すること		
補 助 教 科 書 等	自分で判断して選択すること		
参 考 図 書	自分で判断して選択すること		
プログラム目標			
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・ 海外研修における生活体験に基づいて外国文化を理解できる。		A 4判2ページ以上の帰国報告書、帰国報告会の発表で評価する(50%)。	
・ 外国語で日本の文化やその背景にある考え方を説明できる。		A 4判2ページ以上の帰国報告書、帰国報告会の発表で評価する(50%)。	
履 修 上 の 注 意	・ 事前指導を受けること。 ・ 前年度3月から今年度2月までに、国際交流センターが認定する海外研修に参加し、修了証の複写を提出すること。 ・ 帰国後、報告書を提出すること。 ・ 帰国報告会での口頭発表を行うこと。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
・ 事前研修	・ 海外でなければ学べないような項目を主体的に調べる。 ・ 自分の生活習慣や考え方、さらに日本の文化などを外国語で説明できるよう主体的に準備する。		6
・ 外国文化の理解	・ 海外研修を通じて、現地で使われている言い回しを学ぶ。 ・ 海外研修を通じて、外国の文化を観察し背景となる考え方を学び、日本文化と比較し、長所短所を考察する。		20
・ 日本文化の理解	・ 自分の生活習慣や考え方、さらに日本文化を外国語で説明するために必要な外国語の言い回しを学ぶ。		
・ 事後研修	・ 研修期間中に経験したことを整理し報告書にまとめ提出し、帰国報告会において口頭発表を行う。		4
合計授業時間数(定期試験は除く)			30
成績の算出方法	プログラム実施主体の発行する修了証(複写)を提出し、帰国報告書の提出、帰国報告会における口頭発表を評価し、成績を算出する。		

授 業 科 目	特別学修（日本理解）		
開 設 学 科 学 系	国際交流センター	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	特別聴講学生・随時	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド	異文化理解、日本の生活、日本の文化、日本の社会		
関 連 科 目			
担 当 教 員	柴田 育子、鵜田 正俊		
連絡先(オフィス・アワー)	shibata@h.kisarazu.ac.jp, tokita@d.kisarazu.ac.jp		
教 科 書	指定しない		
補 助 教 科 書 等	指定しない		
参 考 図 書	指定しない		
プログラム目標			
達 成 目 標（合 格 点）		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・ 日本の生活・文化・社会の理解		課題提出による（50%）	
・ 日本体験を通じた自国の再理解		課題提出による（50%）	
履 修 上 の 注 意	・ 本校主催の外国人短期研修生受け入れプログラムに参加すること。		
授 業 計 画			
項 目		学 習 内 容 等	時間数
・ 事前研修		・ 日本の生活・文化・社会について図書館やインターネットを利用して調査する。	6
・ 日本の理解		・ 本校主催の外国人短期研修生受け入れプログラムに参加し、日本での生活を通じ、日本の生活・文化・社会の特徴を指摘し、分析する。	20
・ 母国の理解		・ 日本の生活・文化・社会の分析結果を自国の生活・文化・社会と比較し、自国を客観的に考察する。	
・ 事後研修		・ 本校主催の外国人短期研修生受け入れプログラムを振り返り、できるだけ公正に評価する。	4
合計授業時間数(定期試験は除く)			30
成績の算出方法	事前研修の成果をレポートにまとめ、プログラム参加前に提出する。 事後研修の成果もレポートにまとめ、帰国後に提出する。 二つのレポートを比較し、プログラム参加による理解の深化を評価する。		

授 業 科 目	特別学修 (国際交流：プロジェクト実習Ⅰ、Ⅱ)		
開 設 学 科 学 系	国際交流センター	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	4～5年・通年	授 業 形 態	実習
キ ー ワ ー ド	国際交流、問題解決、チームワーク		
関 連 科 目	各学科の専門科目、実験、実習		
担 当 教 員	鴫田 正俊		
連絡先(オフィス・アワー)	tokita@d.kisarazu.ac.jp（事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる）		
教 科 書			
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プ ロ グ ラ ム 目 標			
達 成 目 標（合 格 点）		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・ 英語によるコミュニケーションを通じ問題解決のための計画立案、相互協力を行うことができる。		報告書および成果発表で評価する。(50%)。	
・ 英語による成果報告、発表を行うことができる。		報告書および成果発表で評価する。(50%)。	
履 修 上 の 注 意	台湾、シンガポール等の海外インターシップに参加していることが望ましい。 履修においては、次の項目を心がけること。 1. 自発的に問題解決の計画立案をし、相互協力による目標達成や相互評価等の能力を養うこと。 2. 短期留学生と日本の学生の混合チームにより国際感覚を身につけ、英語によるコミュニケーション能力を養うこと。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
・ ガイダンス	・ プロジェクトのガイダンス、班分け、テーマ決定		2
・ プロジェクト実習	・ グループで協力して、テーマに関する問題解決実習を実施		26
・ 発表会	・ プロジェクト演習の成果を英語で発表		2
プロジェクトテーマの例	「人とロボットの共存」 ロボットに対する人の興味や愛着形成に着目したソーシャルコミュニケーションをデザインする。会話による癒しやストレス解消等のメンタルケア、また、子供や老人などの見守りなど、ロボットによる幅広い分野でのサービスの可能性を追求し、社会的存在価値を指向するソーシャルインタフェースの構成方法の提案や実装を行う。		
合計授業時間数(定期試験は除く)			30
成績の算出方法	報告書および発表会における口頭発表を評価し、成績を算出する。		

授 業 科 目	特別学修 (国際交流：国際学術会議支援)		
開 設 学 科 学 系	国際交流センター	区 分 ・ 単 位 数	選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	5年・通年	授 業 形 態	実習
キ ー ワ ー ド	学術会合運営、学術論文誌編集		
関 連 科 目	英語関係科目、インターネット関係科目、工学専門科目		
担 当 教 員	鴫田 正俊		
連絡先(オフィス・アワー)	tokita@d.kisarazu.ac.jp (事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる)		
教 科 書	自分で判断して選択すること		
補 助 教 科 書 等	自分で判断して選択すること		
参 考 図 書	自分で判断して選択すること		
プログラム目標			
達 成 目 標 (合 格 点)		各達成目標の評価方法と基準(評価の割合／重み)	
・ 国際学術会議を準備する。		ウェブページとプログラムを作成させ、その利便性や完成度を評価する(40%)。	
・ 国際学術会議の進行を支援する。		各担当の計画に沿って作業をこなせたかどうか、達成度を評価する(10%)。	
・ 国際会議の発表集録(論文集)を編集する。 ・ 自らの専門分野と異なる研究の発表を聴講して視野を広げ、異分野融合の発展性を報告書にまとめる		集録と報告書の完成度を評価する(50%)。	
履 修 上 の 注 意	・		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
・ 事前準備支援	・ 会議公式ウェブページの編集 ・ プログラムの編集 ・ 予稿集の編集 ・ 印刷物があれば印刷作業支援		10
・ 会議進行支援	・ 会場設営 ・ 時計係り等による座長の補佐 ・ 会場撤収		10
・ 集録編集支援	・ 集録の編集 ・ 報告書の提出		10
合計授業時間数(定期試験は除く)			30
成績の算出方法	ウェブページ、プログラム、集録、報告書の評価、作業達成度に基づき、成績を算出する。		

授 業 科 目	特別学修 電子商取引実践演習 I、II、III		
開 設 学 科 学 系	全学科	区 分 ・ 単 位 数	選択・各学年1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	1～3年・通年	授 業 形 態	講義・実習
キ ー ワ ー ド	電子商取引、マーケティング、デザイン、プレゼンテーション		
関 連 科 目	経済学、課題研究、卒業研究		
担 当 教 員	米村恵一		
連絡先(オフィスアワー)	yonemura@j.kisarazu.ac.jp（事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる。）		
教 科 書	企業から派遣された講師により配布される資料を使用する。		
補 助 教 科 書 等	講師からの指示にしたがう。		
参 考 図 書	同上		
プログラム目標			
達 成 目 標（合格点）		各達成目標の評価方法と基準（評価の割合／重み）	
【I】電子商取引に関して身に付けた知識・技術をもとに的確に行動できる。		企業より派遣された講師が実施する各講義に参加することはもちろん、各回において出題された課題を適切に遂行した報告書、講義内容を活かして学内発表会へ参加するために作成した販売ページ、学内発表会における発表手法・内容への貢献度を考慮して総合的に評価する（100%）。学内発表会にて代表となり、外部団体により実施される成果発表会へ参加した場合には、その成果等も考慮する。	
【II】電子商取引に関して身に付けた知識・技術をもとに小グループの目標を設定し行動することができる。			
【III】電子商取引に関して身に付けた知識・技術をもとに所属する小グループを取りまとめ、全体の目標における役割を考えた行動ができる。			
【IV】電子商取引に関して身に付けた知識・技術をもとに全体の目標を設定し、取りまとめることができる。			
【V】電子商取引に関して身に付けた知識・技術をもとに設定した全体の目標を達成できるように実践的な指導をすることができる。			
履 修 上 の 注 意	マーケティングの基礎を学び、販売ページを作成する。さらに、売上の検証から改善、集客について実践的に学ぶことになる。外部講師が講義を行わない週は、担当教員のもとで販売ページ作成実習を行う。一連の学修においては総合的な知識が問われるため、普段から興味を持ち、積極的に自学自習を心がけること。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
・電子商取引を知る	・ビジネスモデル、FAB、実際の電子商取引の成り立ち、講師/店舗/施設、など「知る」ことで理解を深める。		4
・マーケティングの基礎を学ぶ	・販売商品の決定、マーケティングの考え方を学ぶ。店舗/施設を知り、商品を知る。企画書を作成する。		4
・販売ページ作成のノウハウを学ぶ	・売れるページに必要な要素と構成を学び、販売ページの下書きを作成する。		4
・販売ページの画像を作成する	・販売ページの下書きを発表し、販売ページにて使用予定の画像の作成を行う。		4
・販売ページを完成させる	・販売ページにて使用予定の画像の発表を行う。店舗/施設の体験、失敗談を学ぶ。ページの改善を行い、販売を開始する。		4
・検証、改善、集客について学ぶ	・売上の検証、目標達成のための改善策考案、集→参→接→増客の意義・成り立ちを知る。店舗/施設の実例を学ぶ。		4
・検証、代表チーム決定	・作成したページのプレゼンを行い、売り上げ・アクセス状況等の検証を行う。外部団体が企画する成果発表会へ参加する代表チームの決定を行う。		4
・学んだ内容を振り返る	全体を振り返る。成果発表会の内容を共有する。		2
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	企業より派遣された講師が実施する各講義に参加することはもちろん、各回において出題された課題を適切に遂行した報告書、講義内容を活かして学内発表会へ参加するために作成した販売ページ、学内発表会における発表手法・内容への貢献度を考慮して総合的に評価する（100%）。学内発表会にて代表となり、外部団体により実施される成果発表会へ参加した場合には、その成果等も考慮する。		

授 業 科 目	特別学修（基礎原子力工学：遠隔履修型）		
開 設 学 科 学 系	全学科	区 分 ・ 単 位 数	必修・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	全学年全学科・通年（隔週）	授 業 形 態	講義（遠隔）
キ ー ワ ー ド	原子力（放射線, 放射線計測, 原子炉, 材料, 核分裂, 核融合）		
関 連 科 目	基礎科学, 物理学I・II・III, 応用物理I・II・III, 応用物理学実験, 他各専門教科		
担 当 教 員	高谷 博史		
連絡先(オフィス・アワー)	takaya@n.kisarazu.ac.jp 事前にメールなどにより調整を行った上で質問に応じる。		
教 科 書	資料を配布		
補 助 教 科 書 等			
参 考 図 書			
プログラム目標			
達 成 目 標（合格点）		各達成目標の評価方法（評価の割合／重み）	
・ この講義は、GIネットを通じて全国の高専全体で行われる遠隔型の授業である。講義は隔週、通年でおこなわれ、講師は各高専の教員および大学や研究所の研究者などの外部講師である。内容は放射線の基礎、原子炉理論の基礎、放射線計測、安全工学、核燃料リサイクル等で、原子力・放射線に関しより深い理解を促すことを目標とする。		毎回講義後に提出するまとめとアンケートの提出をもって評価する。	
履 修 上 の 注 意	将来、原子力関係に進む希望がある学生は受講することを勧める。希望者には実習も用意されている。また放射線に関する知識は、原子力関係だけでなく他の工業分野でも必要となるので、意欲を持って受講してほしい。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
・ 第0回 ガイダンス	・ 講義内容、レスポンスアナライザーの使い方		2
・ 第1回 原子力関連の講演	・ 東京大学/IRID 鈴木俊一 先生		2
・ 第2回 原子力関連の講演	・ エネルギー経済研究所 村上朋子 先生		2
・ 第3回 原子力関連の講演	・ 京都大学 木村晃彦 先生		2
・ 第4回 放射線基礎	・ 東京都市大学 河原林順 先生		2
・ 第5回 放射線基礎 2	・ 高専教員		2
・ 第6回 放射線計測	・ 東京大学 高橋浩之 先生		2
・ 第7回 放射線計測 2	・ 高専教員		2
・ 第8回 原子炉の構成と物理	・ 東海大学 亀山高範 先生		2
・ 第9回 原子炉材料	・ 京都大学 木村晃彦 先生		2
・ 第10回 原子力とシステム安全	・ 長岡技科大 三上喜貴 先生		2
・ 第11回 核燃料サイクル	・ 東海大学 大江俊昭 先生		2
・ 第12回 放射線防護	・ 東京大学 飯本武志 先生		2
・ 第13回 放射線応用	・ 高専教員		2
・ 第14回 核融合	・ 核融合研究所 磯部光孝 先生		2
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	毎回の講義後に提出するまとめとアンケートの提出（出席状況も含む）をもって評価(100%)する。		

授 業 科 目	特別学修（技術製作活動）		
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	特別学修・選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科3年以上	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド	作品製作		
関 連 科 目	電気回路Ⅰ～Ⅲ、電気磁気学Ⅰ～Ⅲ、電気計測、電気電子製図、電気電子工学実験、機械工作実習、電子回路Ⅰ～Ⅱ、電気機器、自動制御Ⅰ～Ⅱ、高周波工学、電気電子材料、情報処理、情報処理演習、コンピュータ工学Ⅰ～Ⅱ、コンピュータ実習、パワーエレクトロニクス、情報通信Ⅰ～Ⅱ、システム工学、高電圧大電流工学、エネルギー発生工学、送配電工学、電気設計、機械工学概論等、電気電子系科目全般		
担 当 教 員	浅野 洋介		
連 絡 先（オフィスアワー）	asano@e.kisarazu.ac.jp（事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる。）		
教 科 書	なし		
補 助 教 科 書 等	なし		
参 考 図 書	なし		
プ ロ グ ラ ム 目 標			
達 成 目 標（合格点）		各達成目標の評価方法（評価の割合／重み）	
授業で学んだ知識を総動員して、実際に独創性あふれる製作活動を行う。 実際に「もの」を作ること教科書や授業の知識だけではない現実的な対応力を身につけることが目標である。製作物は、ソフトウェア・ハードウェアを問わない。		公開の発表会を開き、製作物と計画書によって評価を受ける。評語Aおよび1単位を認定する。	
履 修 上 の 注 意	製作物は完璧でなくても良いので、興味を持って楽しく物を作ることが効果的な学習につながる。		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
4～5月 ・計画書と設計図の作成 6～8月 ・作品製作 9月 ・作品発表会 報告書を作成して単位の認定を受ける。	・週2時間、担当教員のもとで行う。 ・土曜日あるいは夏季休業中に、担当教員のもとで実施する。 ・公開の発表会を開く。		30
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	公開の発表会を開き、製作物と計画書によって評価を受ける。評語Aおよび1単位を認定する。		

授 業 科 目	特別学修（研究活動）		
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	特別学修・選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科3年以上	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド	研究発表、論文		
関 連 科 目	数学、物理学、国語、英語、ドイツ語、電気回路、電気磁気学、情報処理、電気電子工学実験等、一般および専門科目全般		
担 当 教 員	浅野 洋介		
連 絡 先（オフィスアワー）	asano@e.kisarazu.ac.jp（事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる。）		
教 科 書	各分野の学会論文、文献		
補 助 教 科 書 等	なし		
参 考 図 書	なし		
プ ロ グ ラ ム 目 標			
達 成 目 標（合格点）		各達成目標の評価方法（評価の割合／重み）	
本科目は、これまでの講義や学生実験、（学年によっては）課題研究、卒業研究等で身につけた力を総合的に発揮し、狭い学内にとどまらず、広く日本全国、さらには世界中に対峙する研究活動を行うものである。 課題研究や卒業研究も学内にだけ閉じた研究活動では無いが、ここで言う「対峙」とは、学会や国際会議、各種委員会などでの口頭発表、あるいは論文発表を意味する。 すなわち、教官などの指導のもとで行った研究成果を広く外部に向けて発表し、その過程を通して視野を広げ、問題解決能力、工学的・理論的思考能力、論文執筆能力、文献調査能力、プレゼンテーション能力等を身につける事が、本科目の目標である		権威ある学会での公式な発表、あるいは公式な委員会、研究会などでの発表に至った場合をして単位認定とする。公式文献に参考文献として引用できる程度が目安である。評語Aで1単位が認定される。	
履 修 上 の 注 意	高専教員は、大学教員と同じく学会等で活躍する研究者でもあり、それぞれが専門の研究分野をもっている。各教官のもとで学生各々が研究を行っていくのであるが、先ず、教官の専門分野や研究テーマを知り、自分が何を学び、研究したいのかを決めることが重要である。そのテーマに向け、自主的、積極的に取り組めば、これまでの知識が総合的に開花し、研究の困難さと共にその楽しさを知ることが出来るであろう		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
研究公表に至る大まかな流れは下記の通りである。 1. 研究テーマの決定 2. 研究の遂行 3. 発表予稿、あるいは論文執筆 4. 発表、あるいは論文誌に掲載 これらを遂行するには各教員の研究室が一般的であるが、それにこだわらず、例えば研究的同好会などでも遂行可能であろう。 2月報告書を作成して提出する。			30
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	学会等での発表内容、論文内容で評価する。評語はAで単位は1単位を認定する。		

授 業 科 目	特別学修（プロジェクトマネジメント I）		
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	特別学修・選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科3年以上	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド	作品製作		
関 連 科 目	電気回路Ⅰ・Ⅱ，電気磁気学Ⅰ・Ⅱ，実験実習Ⅰ・Ⅱ，情報処理Ⅰ・Ⅱ，情報処理演習，コンピュータ工学Ⅰ・Ⅱ，コンピュータ実習		
担 当 教 員	浅野 洋介		
連 絡 先（オフィスアワー）	asano@e.kisarazu.ac.jp（事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる.）		
教 科 書	なし		
補 助 教 科 書 等	なし		
参 考 図 書	なし		
プ ロ グ ラ ム 目 標			
達 成 目 標（合格点）		各達成目標の評価方法（評価の割合／重み）	
授業で学んだ知識を総動員して，実際に独創性あふれる製作活動を低学年と共同で行う．設定された課題を解決するために，実際に「もの」を作ること で教科書や授業の知識だけではない現実的な対応力を身につける．そして，リーダーシップを発揮し工程管理能力を獲得することが目標である．		定期的な報告，製作物，発表によって評価を受ける． 評語Aおよび1単位を認定する．	
履 修 上 の 注 意	低学年と共同で製作を進めていく．技術力の向上，および，リーダーシップやコミュニケーション能力を培うことを目標として，興味を持って楽しく物を作ること望ましい．		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
プロジェクトの大まかな流れは下記の通りである． 1．プロジェクトテーマの決定 2．製作物の決定 3．製作の遂行 4．発表	・ 週2時間，担当教員のもとで低学年と行う． ・ 土曜日あるいは長期休業中に，担当教員のもとで実施する． ・ 公開の発表会を開く．		30
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	定期的な報告，製作物，発表によって評価を受ける．評語Aおよび1単位を認定する．		

授 業 科 目	特別学修（プロジェクトマネジメント II）		
開 設 学 科 学 系	電気電子工学科	区 分 ・ 単 位 数	特別学修・選択・1単位
受 講 年 科 ・ 学 期	電気電子工学科3年以上	授 業 形 態	演習
キ ー ワ ー ド	作品製作		
関 連 科 目	電気回路Ⅰ・Ⅱ，電気磁気学Ⅰ・Ⅱ，実験実習Ⅰ・Ⅱ，情報処理Ⅰ・Ⅱ，情報処理演習，コンピュータ工学Ⅰ・Ⅱ，コンピュータ実習		
担 当 教 員	浅野 洋介		
連 絡 先（オフィスアワー）	asano@e.kisarazu.ac.jp（事前にメール等により調整を行った上で質問に応ずる.）		
教 科 書	なし		
補 助 教 科 書 等	なし		
参 考 図 書	なし		
プ ロ グ ラ ム 目 標			
達 成 目 標（合格点）		各達成目標の評価方法（評価の割合／重み）	
授業で学んだ知識を総動員して，実際に独創性あふれる製作活動を低学年と共同で行う．設定された課題を解決するために，実際に「もの」をすることで教科書や授業の知識だけではない現実的な対応力を身につける．そして，リーダーシップを発揮し工程管理能力を獲得することが目標である．		定期的な報告，製作物，発表によって評価を受ける．評語Aおよび1単位を認定する．	
履 修 上 の 注 意	低学年と共同で製作を進めていく．技術力の向上，および，リーダーシップやコミュニケーション能力を培うことを目標として，興味を持って楽しく物を作ること望ましい． プロジェクト・マネジメントⅠを履修していること．		
授 業 計 画			
項 目	学 習 内 容 等		時間数
プロジェクトの大まかな流れは下記の通りである． 1．プロジェクトテーマの決定 2．製作物の決定 3．製作の遂行 4．発表	・ 週2時間，担当教員のもとで低学年と行う． ・ 土曜日あるいは長期休業中に，担当教員のもとで実施する． ・ 公開の発表会を開く．		30
合計授業時間数(前期および後期の定期試験は除く)			30
成績の算出方法	定期的な報告，製作物，発表によって評価を受ける．評語Aおよび1単位を認定する．		